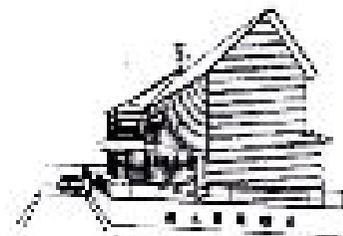


< 教会の学びから > 17 節で didaskaloi という言葉が、師という語に訳されています(英語の聖書の teacher になります)。質問したのはユダヤの教えをよく学んでいる人でした。普通“主よ”と言う時はキリスト kurioj (カリウ) という言葉が新約聖書では用いられます。ユダヤの人々は、神が人となり救い主となれることを、日本式で言いますと“畏れ多いこと”として、頑なにメシアという言葉は、特に人に対しては使いませんでした。18 節でイエス様は“神ひとりのほかによい者はいない”と答えます。よき師の“良き”が 17-18 節で用いられています agaqoi (アガウ) という言葉です。この良いは完全によいという意味でしょう。全ての人は神に従うものだからです。“私は立派な信仰者”と思いこんで、そのための努力に明け暮れている、この人の姿を見抜かれたのです。19 節にある誠の項目はすべて“十誡”の言葉です。この人は“守っています”と信仰的自信のゆえに答えてしまいました。私たちも主の教えを守りたいと願っても、また更に主に倣うものとされたいと願ったにしても“私は完全”とは答えないことを思い起こしてみたらこの場面が十分想像できるでしょう。21 節では、まず“いつくしんで”という言葉に注意しましょう。主は、この真剣さに心をとめられ、神に“明渡した生き方ができていない”と仰っています。23 節で“財産のある者が神の国にはいるのは、なんと難しいことであろう”という言葉に、特に日本の教会や教職者は強く反応した歴史をもっています。“貧しいことは良いこと、またそうなるべきであり、美德でもあり、仮に豊かだとしたら商売上手だ”と無言の圧力を感じてきたのです。27 節で、結論のように“神にはできる。神はなんでもできるからである”と語られますが、これが弟子たちに対する答えでもありました。28 節でペテロは“ごらん下さい、わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従って参りました”と説明し、先に書いたことと同じ間違いを犯します。29 節に続いて“必ずその百倍を(この世で)受ける”と 30 節で語られます。捨てただけでは、ただ捨てた事にしかなりません。金銭をもっては出来なかった、諸々の良い事を行う力をイエス様から頂いて、“あなたの父と母を敬え”という神様の教えを知るのです。今の世の中は、豊かさで解決しようとするので、多くが解決できると思い、家庭の中にも不幸を作りました。家族の為に財を使うこともできないでいるかもしれません。敬虔を誇る人は、主に頼る人にまさりません(31 節)。

週報

2009年 11月 22日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042